

## ソフト会社のPL・課長向け「シミュレーション」教材のご紹介

※ 当ご紹介は過去のものであり、「リニューアル版」に関しては  
弊社サイトの関連ページをご参照ください。

### — 目 次 —

#### 1. 「ソフト会社リーダー育成 セミナーで修羅場を演出 ACC」

(「日経産業新聞」 1989年8月17日)

#### 2. 「ソフト開発の司令塔養成 アドホクラット」

(「日本経済新聞」 1992年8月31日)

#### 3. 「シミュレーション教材」ご紹介のパンフレット (1992年5月 当時) [ 1 / 3 ]

" [ 2 / 3 ]

" [ 3 / 3 ]

ソフト開発・コンサルティングのアドホクラット(ACC、本社東京、社長広瀬保雄氏、資本金一千五百万円)はソフト会社の管理職やプロジェクトリーダーを養成するためのセミナーを始めた。ソフト会社では、経営陣や管理職は少ないので多数のシステムエンジニア予備軍を抱えている場合が多い。管理職やプロジェクトリーダーの育成に苦労している。ACCのセミナーでは、管理職などが直面する危機を模擬体験させることにより、実際の仕事上で危機を切り抜けられるよう教育する。

# ソフト会社リーダー養成

で模擬体験ができるので、実際の

主任・課長クラスの管理職養成のセミナーでは、セミナー開始十日前に「△課長の『行き詰まり』とむなしさ」。『どう日記形式の文章を与える。顧客がわがままな要求を出し、部下が辞めていく』という内容で、受講者は、これを読んで日記を使って議論したり、配役を決めて危機の場面を演じたりする。

同時に六十問からなる質問に答えて、自分のどこの管理職としても「あるプロジェクト・リーダーの修羅場」という日記風の文章を与える。内容は、開発がはかどらないのに完成予定期日

が刻々と近づき、最後には電話が鳴り、開発担当者の交代を告げられるというもの。

セミナーは「相三日が標準。管理職やプロジェクトリーダーが晴りやすい危機を日記や討論

ジニア予備軍を抱えている場合が多い。管理職やプロジェクトリーダーの育成に苦労している。ACCのセミナーでは、管理職などが直面する危機を模擬体験させることにより、実際の仕事上で危機を切り抜けられるよう教育する。

# ACC

危機回避に役立つほか、自分の欠点を見つめる機会にもなるといろ。

1992年(平成4年)8月31日(月曜日)



## ソフト開発の「司令塔」養成

ソフト開発会社の最大の

いた。

悩みの種は優秀なプロジェクトリーダー不足。ソフト開発プロジェクトの工程設定や価格見積もり、システムエンジニア(SE)の配置など、「司令塔」として

ソフト関連のコンサルティング・教育を手がけるアドホクラットはテープを使ってソフト開発プロジェクトを模擬体験する教材を開発した。

プロジェクトを統括するプロジェクトリーダーの教育には時間も費用もかかるから、教材のタイトルはすばり「あるプロジェクトリーダーの一の修羅場」。テープに吹き込まれたストーリーの内容は、あるソフト会社のプロジェクトリーダーが開発納期に間に合わない状況に立たされ、顧客から発注取り消しを言いわたされる、

臨場感あふれるプロジェクトリーダーの研修

といつもの。

受講者は、日常の業務で遭遇するトラブルやハラミ

を合わせた教材は三万四千円と低価格が売り物。

**ビジネス発見**

立でのストーリーを聞きながら、「OO氏の行動のどこに問題があるか」「△△の有効な対策は」など、内容を検証する形式の設問に答える。困難な局面にどう対応すべきかを学び、プロジェクトリーダーとしてのマネジメント能力を養う仕組みだ。

プロの声優が緊迫した声で読むストーリーに、受講者からは「我が身のことがよくにリアルで、アドホクラットは「あるプロジェクトリーダーが立たされ、顧客から発注取り消しを言いわたされる、

◆アドホクラット◆

景気後退で需要が冷え込んだ現在、厳しい経営環境に苦しむソフト会社も少なくないが、広瀬社長は「今こそ、じっくりと社員を教育する好機」と訴えている。

△

所在地：東京都町田市木曾町100セノ六、0427-92-8005、社長：廣瀬保雄氏、資本金三千萬円。

※ 下記のパンフレットは、1992年5月当時のものです。2004年現在の「リニューアル版」について  
は、弊社サイト関連ページをご参照ください！（Windows Media Player 向けCDとしてリニューアル！）



## 開発マネージャーの育成は “危機体験”以外になし！ 試されぬロング・ランのセミナーが当教材に収録！！

- ★ 想くだけでも考えさせられ、そして感情がざわめく！
- ★ 「独習」形式可！独習を踏まえた「集合研修」ならエキサイティングな場が発生！そして手堅い体験感が……
- ★ 「プロジェクト・リーダー」層と「課長」職必体験！

『ソフトウェア技術者のための人事考課』の ACC (株) アドホクラット  
〒194 東京都町田市木曾町 1007-6 ☎ (0427) 92-8959

### ■ 「なぜ『新教材』を発売するのですか？」

’92年のソフト業界は、産業界全体の不況に加えて、エンド・ユーザー・コンピューティングの広がりなどを迎え、仕事の確保をめぐり文字どおりのサバイバル戦争が始まっています。そして、この傾向は単なる「一過性」の事態ではなく、今後のソフト業界の前兆だともささやかれています。

いずれにしても、これからの中堅マネージャーは、旺盛な営業力やマネジメント力などを含む総合的なビジネス・パワーの装備が急務となっています。そして、これらのパワーの基礎が「中堅マネージャー」層（プロジェクト・リーダー、課長職など）の力量アップにかかっていることは明白です。

社外研修への参加が困難なほどに忙殺されている「中堅マネージャー」層のための自社内研修向けに当『新教材』は発売されました。

### ■ 「『新教材』は、誰に、何を学ばせるのですか？」

① プロジェクト・リーダー（主任クラス）に対しては、プロジェクト・マネジメントの基礎的統合力とリーダーシップについて学習します。このクラスのビギナーが不慣れな「原価管理」を含み、「工程管理」・「品質管理」そして「要員管理」のそれぞれに眼を向けさせています。ユーザーに対する姿勢も焦点となります。

② システム開発課の課長職に対しては、まず技術者上がりの管理職としてありがちな「論理性」一本槍の偏狭な執務姿勢や使命感の欠如などの是正からはじまり、「開発管理」というモノの管理に加え、ヒト（部下・顧客）やカネ（採算性）の領域にしっかりと注目させています。さらに、現時点でのソフト会社各社の切迫した課題となっている「業務特化路線」づくりに向けた課長の役割について考えさせます。

「課長職廃止」の非現実的な風潮もある中、技術への洞察力、コンセプチュアル・スキル、人間洞察力を駆使して「組織を動かす」そんな課長像を激しく提示しています。

### ■ 「『新教材』の内容構成はどうなっていますか？」

『新教材』セットの内容構成は下記のとおり【I】と【II】のセットとなっています。

【I】ドラマ仕立ての朗読吹き込み『テープ』教材	【II】『小冊子』教材一式
No.1 「あるプロジェクト・リーダーの修羅場」 9分30秒 《プロジェクト・リーダー向け》	No.1, No.2のそれぞれに対して下記の教材を設定。
No.2 「組織を動かせる管理職をめざせ！」 20分30秒 《課長クラス向け》	① 学習オリエンテーション資料 ② 朗読されたドラマの『原文』 ③ 独習向け『設問集（回答用紙）』と『回答例』 ④ 集合研修向け『グループ課題』・『想定データ』 ⑤ 関連学習資料集
※ 60分テープのA・B両面それぞれにNo.1+No.2を収録し、巻き戻し不要のかたちになっています。	

### ■ 「御社の“既”販売商品『ソフトウェア技術者のための人事考課』との関係は？」

『ソフトウェア技術者のための人事考課』システムは、既に全国のソフト会社数百社に購入いただいており、今回の『新教材』発売もそうした各社からの以下の要望にお応えする意図が含まれております。

- ① SE職に加えて、プロジェクト・リーダーやソフト会社の管理職を動機づける何かが欲しい。
- ② 「技術力プラスα」資質に関してより実践的なリアルな教材が欲しい、という点です。

### ■ “ドラマ”的ストーリーに興味があるのですが、どんな流れでしょうか？」

No.1の主人公：M主任とNo.2の主人公：K課長は、中堅ソフト会社S社の部下と上司。M主任がリーダーのプロジェクトは、どこにでもいるような性格のM主任の采配のために危機的破局を迎えることになった。経営戦略を賭けた開発の、その不首尾を危ぶむ発注側が、契約の中途解約を申し入れてきたのであった。現行の進捗状況、外注との関係、そして何よりも顧客との関係などの狭間でM主任はまさに“修羅場”に立たされたのであった。No.1の多角的な『設問集』は、ここまでで一応閉じたドラマのこの“修羅場”的解析に学習者を誘う！

“修羅場”に遭遇するのはM主任だけではなく、もちろん直属上司であるK課長も同様である、とするところから課長クラス向けのさらにシビアなドラマが展開してゆく。課長の課題は、最悪の事態に突入した顧客との関係を修復しつつ、当該開発物件を完了させること。のみならず、退廃した「課」を立て直し、環境が要求する「業務特化路線」づくりにも取り組まなければならないといった厳しさ！だが、部長の助けを借りながらではあるが、K課長は単なるつじつま合わせではない王道を歩み始めるのであった。目頭を熱くさせている学習者に対し、『設問集』は、容赦なくエッセンスを照らし出してゆく。業界にありがちな技術者上がりの「覚めた」管理職が変貌を遂げてゆくプロセスに、泥臭い課長実務の諸課題に、そしてこれまでの自分自身に！

### ■ “教材”としての具体的な内容と工夫点は？

- ① 『テープ』を聴き、フリー・トーキングをしたり、絞り込んだ「議題」を設定しての意見交換であっても興味深い教育の場にもってゆくことができます。開発現場をリアルに再現しているからです。
- ② 独習形式のための『設問集』に添って回答するかたちの学習も可能です。十数間に及ぶ設問は、ストーリーをより解析する作業にいやがおうにも向かわせ、『原文』がアンダーラインやカラーペンの跡で染められることもしばしばあるでしょう。
- ③ ②を事前学習とした「集合研修」が最も効果的なことは言うまでもありません。  
そのために、「3」グループ別様のグループ課題が設定されています。さらに、『原文』を補足する『想定データ』集（例えば、M主任、K課長の部下にはこんな技術者がいるとか、S社の見積り時の設計単価はいくらくらいと定められているとか etc.）が、参加者の勝手な推測を拒みリアルな知恵を絞らせます。時間をかけ、議論を深めれば深めるほどに、“修羅場”は「あり地獄」のように苦しくなるように計算され環境設定されています。  
「3」グループが相互に発表し合い、質疑し合うかたちでこの「集合研修」は山場となること必定です。

### ■ “シリーズ”としての新作も検討されているのですか？

当『新教材』の反響によっては、『テープ』化、『ビデオ』化を実施する予定の素材が既に数本準備されています。（『リーダー資質とあるプロジェクトの経過面』【プロジェクト・リーダー向け】、『新人指導方針あれこれ問答』【入社2～3年生向け】、『奮闘！“便利屋”さん』【新人向け】etc.）  
長年のセミナー講師の経験から言えることは、退屈な講義よりも、メディアを駆使して、受講者自身に「やらせる」方式が効果的だということなのです！

### ■ “セミナー”のかたちでの実施はどうなるのですか？

- 現在実施中の下記のセミナーは今までどおり企画制作（廣瀬）が講師を務め実施します。
- ① 嶋テクノ・インフォメーション・システムズ主催（03-3780-6291）  
『ソフトウェア開発におけるプロジェクトリーダ育成の実践演習（2日コース）』
  - ② (財)日本生産性本部主催（03-3498-2555）  
『課長能力開発コース（2泊3日コース）』
- ※ 上記セミナーでは、当『新教材』活用以外に、数多くの有益な情報が提供されています。

◎ なお、当『新教材』発売を記念し、『新教材』を活用した各社での社内研修会実施のインストラクター育成を目的としたセミナー（1日コース）が、嶋テクノ・インフォメーション・システムズ主催で予定されています。

### ■ 「新教材」は“低価格”だと聞いてますか？

弊社は、前述の『ソフトウェア技術者のための人事考課』もデコレーションを廃し、内実のみを低価格でご提供してまいりました。今回もできるだけ多くの同業他社にご活用いただくことを目的に、無駄なコストをかけない分、価格を低く抑えてご提供することになりました。

① 『新教材』セット（【I】と【II】のセット）	セット定価 34,000円（消費税別）
② 【I】ドラマ仕立ての朗読吹き込み『テープ』教材のみ	定価 12,000円（消費税別）
③ 【II】『小冊子』教材一式のみ	定価 23,000円（消費税別）

### ■ 「新教材」の発売時期

郵送にて納品させていただけるのは、‘92年の5月連休明けとなります。  
ご注文は別紙『申込み用紙』をご利用ください。

### ■ 『テープ』制作にあたっては下記の協力を得ております。

- ★ 朗読：小高三良（嶋バラータ企画）
- ★ 録音：高橋事務所

### ■ 『テープ』を含む当『新教材』の著作権は、嶋アドホクラットに属します。

★複製、貸貸および無断公開・放送を禁じます。© ADHOCRAT 1992

『サバイバルゲームのキャスティングポート！』

ソフト会社<sup>®</sup> 管理職<sup>®</sup>

プロジェクト・リーダー

模擬体験 演習！を駆使した

”実戦力”養成セミナー好評！

『ソフトウェア技術者のための人事考課』の  (株)アドホクラット  
〒194 東京都町田市木曾町 1007-6 ☎ (0427) 92-8959

★ ソフトウェア開発会社間の「サバイバルゲーム」は、ますます“加熱”の度を深めてきております。“加熱”現象の表層では、仕事はあっても「高」収益の仕事が減少、目に見えるかたちでの「採用」効率の悪化、バケツの底が漏れているかとさえ思える「定着率」の悪化が自覚されたりしています。もはや業界環境は、ソフト会社のすべてに対し「小春日和」を提供することをやめ、地道な「企業努力の有無」を横線にした冷たい日陰をも形成し始めているかのようです。

こうした「サバイバルゲーム」の加熱化を促しているものは、概してユーザー側のニーズの質的向上と品質評価水準の向上でしょうか。そして、「より良く、より早く、より安く」と言うユーザー側ニーズの「ニーズ」を基盤にして、安定した開発、迅速な開発、効率的な開発などを目指すソフト会社は、互いにしのぎを削り合っています。こうして、同業他社に対する競争力、および「陣借り」意識を持つ技術者たちを対象とした採用吸引力などの増強作戦で「サバイバルゲーム」は激化の一途をたどっている模様です。

★ このような業界環境にあって、「SE の早期育成」をめぐる課題は広く認識されるに至り、もはや「当然」の感があり、今やステップアップした次の課題が合わせて模索され始めていると言えます。それは、上記の「サバイバルゲーム」でいわば「キャスティングポート」(接戦時の決め手!)の役割を担うところの

『ソフト会社<sup>®</sup> 管理職<sup>®</sup> (主任・課長)』や

『プロジェクト・リーダー』の

”早期パワーアップ！”ではないでしょうか。

★ ところが、この両者の”育成”がその「特殊性」ゆえに決して容易ではないことも周知の事実です。「ソフト会社<sup>®</sup> 管理職<sup>®</sup>」には、他業種の管理職にはない「プロジェクト・マネジメント」職務が常時ついてまわる特殊性や、「スペシャリスト」としての技術者(ビジネス音痴?)が「ゼネラリスト」としての管理者に変貌しなければならないという特殊課題があります。また、「プロジェクト・リーダー」養成には、技術者が少なからず苦手とする「リーダーシップ」や何よりも総合的問題解決能力養成に向けたインセンティブを必須とし、単なる断片的な管理知識の教育で済むものではないでしょう。

以上の「特殊性」に加え、この両者は、「試しにやらせてみよう」とかいうイージーな育成方策に馴染みません！「試し」の管理職や「試し」のプロジェクト・リーダーは、当のご本人を潰すだけでなく、経営的にあまりにも大きな被害を発生させることとなるからです。”航空パイロット”的養成で、「試しに操縦させてみるか」という乱暴ができないと同様でしょう。となれば、航空パイロット養成向け「シミュレーター」のような教育環境が、これらの育成においてもなければなりませんと思いますが、いかがでしょうか。

## ”新企画”セミナーの概要

### ☆現実感豊かに構成された「模擬」事例教材！

① 「シミュレーション・アプローチ：模擬体験シリーズ」として以下の教材設定。

◆No.1『あるプロジェクト・リーダーの修羅場』(主任クラスのプロジェクト・リーダー層向け)

◆No.2『組織を動かせる管理職をめざせ！』(課長など管理職層向け)

※ No.3 以降の「新」教材も切迫課題に即応したテーマで現在開発中！

② 教材は、『ソフトウェア技術者のための人事考課』開発視点をさらに練り上げ、開発「現場」志向的に構成。

③ 「模擬」事例のリアルさは、分析・考察を加えるほどに浮かび上がるよう推進がほどこされています。

④ リアルに、抜かりなく構成された「模擬」事例は、受講者の姿勢を次第に「本気」にさせてゆきます。

⑤ 最悪事態の「模擬」事例「体験」は、「模擬体験」ではあれ、受講者に広い視野としたたかさを喚起します。

### ☆”実戦力”を鍛錬する「設問」集！

① 課題の性格上、批評的観点を許さず、主体的に取り組まざるを得ない路線を追求。

② 現実の「現場」と同様、「設問」への取り組みに時間的「余裕」などの甘い環境は設定されていません。

③ 「説得力」、「折衝力」、「計数管理力」そして「見積能力」など技術者のもつ一般的弱点の克服が焦点です。

### ☆個人別学習 → グループ別討議作業の「両面で」訓練！

○ 事前に個人別課題が義務づけられ、その学習が前提にグループ別討議作業がなされるため、学習は全面的です。

### ☆充実した模擬体験を方向づける講師レクチャ！

○ 講師レクチャでは、前提知識、前提姿勢(責任感ではなく、「使命感」!)が熱っぽく展開されます。

### ☆「実施」企業各社から「やって良かった」の声多數！

### ☆実施方法について

① 一社単独コース(10~15名、「2泊3日合宿」または「2日」[施設はご提供下さい]、当方より講師派遣)

② オープン・コース(15名[各社参加員数自由]、「2日」)

※ 詳しい資料はご請求ください。